

# 「あおり立志挑戦塾」を 志望される皆さんへ

塾長 野田一夫



“夢”という言葉が子供にふさわしいように、“志”という言葉は若者にふさわしい。夢も志も人生の望ましい将来像だが、子供が心に描く夢は淡い願望に過ぎないから、やがて人生の厳しい現実と遭遇するや儚く消える。他方志は、成人して“我”を自覚した者だけが、ある契機で心中に立ち上げる確固たる、遠大な、ある種の感動を伴う人生目標だ。

いかなる職業に就いても彼らの志は、人生の厳しい現実とぶつかって挫けるようなことはなく、彼らの人生を充実させながら周辺の人々を活気づけ、同時に広範な社会的影響力を発揮する。世間的知名度とは関係なく、彼らこそが真の意味の“人財”である。古今東西を問わず一國・一地域・一集団の発展と繁栄は、必ず相当数の人財を軸にして可能だった。

今回青森県で県の輝かしい将来を担う人財養成を目的とする「あおり立志挑戦塾」を創設することとなったのも、この歴史的事実を踏まえてのことだ。しかも驚いたことに、三村知事からは何とこの私に初代塾長就任の要請があった。創設の趣旨に共鳴してその場でお受けしてしまったものの、以来私の心には、責任感と期待感が日々高まりつつけている。

塾生は県在住の30歳前後の社会人だが、本塾は卒業生に対して、将来の県内在住をとくに求めはしないことも銘記してほしい。重要なことは、どこに住むかではなく、青森の将来のために何を、どう貢献するかだ。もちろん私自身すでに、そのことが頭から離れない。真に青森を愛する気鋭の諸君が一人でも多く本塾を志願されることを、心から期待したい。

## 野田一夫氏 略歴

財団法人 日本総合研究所理事長  
多摩大学名誉学長  
初代宮城大学学長

生年月日: 1927(昭和2)年6月22日 (平成20年5月1日現在80歳)	1970年 財団法人 日本総合研究所設立にあたり、 茅誠司理事長のもとで初代所長
1952年(昭和27) 東京大学社会学科卒業(産業社会学専攻) 東京大学大学院特別研究生 (1955年まで、経営社会学・経営学専攻)	1978年 副理事長(1981年まで) 1975年 ハーバード大学イェンチン・フェロー 1981年 財団法人 日本総合研究所理事長
1955年 立教大学専任講師 この間、東京大学、東京都立大学、 成蹊大学の非常勤講師	1985年 社団法人 ニュービジネス協議会設立にあたり、 初代理事長(1987年まで)
1958年 立教大学助教授	1989年(平成元) 立教大学教授退任
1960年 マサチューセッツ工科大学ポスドクトラル・フェロー (1962年まで、企業経営の国際比較研究)	1989年 多摩大学学長 1993年 社団法人 日本マネジメントスクール会長
1965年(昭和40) 立教大学教授	1995年 多摩大学学長退任 多摩大学名誉学長(現在まで)
1967年 同大学観光学科開設にあたり、初代学科長 (1970年まで)	1997年 宮城大学設立にあたり初代学長 2001年 宮城大学学長退任 2001年 財団法人 日本総合研究所会長 2002年 財団法人 社会開発研究センター理事長

## 「あおり立志挑戦塾」の概要

■塾長 / 野田一夫氏

■会場 / 青森市浅虫

(受講・宿泊とも) 公立学校共済組合浅虫保養所「帰帆荘」

■受講料 / 無料 食費・宿泊費(1回あたり1万円程度)と  
交通費は自己負担となります。

■実施スケジュール (年6回、各1泊2日)

第1回	平成20年 7月19日(土)~20日(日)
第2回	平成20年 8月30日(土)~31日(日)
第3回	平成20年 9月27日(土)~28日(日)
第4回	平成20年10月25日(土)~26日(日)
第5回	平成20年11月22日(土)~23日(日)
第6回	平成20年12月13日(土)~14日(日)

■内容

毎回、塾長が選んだ講師(1名)による講話のほかに4~5人の小グループによるディスカッション(討議)が中心になります。講師は、分野にこだわらず、各界でご活躍の方や塾生に刺激や影響を及ぼす方をお招きします。また、グループディスカッションでは、青森公立大学の教員等が議論の進行や取りまとめをします。

■塾の日程 (時間、内容について変更する場合があります)

	1日目(土曜日)	2日目(日曜日)
5:30		早朝散歩(希望者のみ)
7:00		朝食
8:00		モーニングトーク 塾長によるまとめ
9:30		塾生振り返り(自己チェック)
(10:00)		振り返り終了次第解散
	(各自昼食)	
12:30	集合・受付	
13:00	塾長による導入 講師による講話	
16:00	グループディスカッション 途中、入浴・夕食をはさむ	
21:00		